

タイトル：2023 年度中東☆イスラーム教育セミナー（第 19 回）

日時：2023 年 9 月 21 日（木）～24 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

唐 夢娜（東京大学大学院総合文化研究科）

初日に、スーツケースを持ちながら、セミナーに参加しにきた学生が多くいらっしゃいました。教育セミナーは、わざわざ遠方からそこまでして参加しに来る価値があるのだと少し驚きました。また、夕食会の際、このセミナーに修士一年の頃から参加できたのはなかなか良いと言われました。このような貴重な機会を紹介してくれた友達に感謝しております。

四日間連続、非常に優秀な受講生の発表を伺い、大変勉強になりました。

まず、東南アジアのイスラームに焦点を当てている者として、さまざまな視点から分析される中東地域研究を知るのは刺激的でした。発表の中には、歴史学的な研究が多くありましたが、その内容が十分に理解できず、自分の勉強不足さを意識させられました。また、専門外の研究に対しても質問ができないものかと考え、先輩方の質問の仕方を見習いました。研究の方法論などから質問することで、自分の研究もより明確に進められるのではないかと思いました。

そして、研究者を目指している学生と共に、研究そのものについて考えたことも私にとって貴重な経験でした。私自身は、博士課程に進学しますが、仕事としては国連職員を目指しています。そういう私にとっては、研究の意味は少し異なる気がします。けれど、同じくイスラーム研究をしている仲間ができたのは、とても嬉しく思います。

さらに、床呂先生のセミナーについてですが、とても興味深く聞かせて頂きました。東南アジアのイスラームは、以前より保守化しつつあると想定されることが多いですが、そう簡単には言えないのではないかと改めて考えさせられました。あまり漫画やアニメに詳しくないですが、日本文化の流行によって、マレーシアの若者にとって新たな自己表現のための空間を生み出すのみならず、同性愛に関連したコンテンツが許されたり、宗教や民族の境界を越えたりできたことは、とても面白かったです。

また、後藤先生には、いつもお世話になっておりますが、私が東大で企画したイベントでまた助けて頂きました。その厚意にとっても応えられませんが、今後自分の研究に精進しつつ、また交流できたら幸いです。

最後に、今回のセミナーで出会ったすべての方々に感謝を申し上げます。このセミナーでの交流は、私の人生において有意義なものになりました。最後の最後に、セミナーの運営を担当していらっしゃる千葉さんへ、色々どうもありがとうございました。